令和5年度　小平市立上宿小学校　学校評価報告書

学校教育目標　◎かしこい子　豊かな情操に支えられた創造的思考力の育成　○やさしい子　相手の心情を考えるやさしさと連帯感の育成
○がんばる子　ねばり強く追求する意志力の育成　○じょうぶな子　心身ともに健康で前向きに生きる力の育成

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　「楽しい」「明日も来たい」上宿小　～コミュニティで支える「できた」「分かった」「やってみたい」～
【目指す児童・生徒像】めあてをもって主体的に学ぶ上宿の子　～安心できる場で　主体的に学ぶ～
【目指す教員像】　人を大切に、連携しながら魅力ある授業を追求する教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

○9割の児童が学校に楽しく登校していると感じている。　○主体的に学ぶ授業を校内研究で取組み、「～たい」を大切にした学習のイメージができた。
▲読書に習慣が身に付いている割合が低い。　●基礎・基本の定着が十分ではない。

	具体的方策	第1回評価 取組指標	第1回評価 成果指標	成果・課題・対策	第2回評価 取組指標	第2回評価 成果指標	学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
楽しい授業の実践	授業のねらいの明確化や児童に考えさせるための発問、ICTの活用をポイントとして、年3回の公開授業を行う。	4 100%	3 80.3%	＜成果＞・教師が常に意識して授業を進めている。 ・算数の習熟度別指導では、人数の少なさを生かし、できるだけ一人一人に合った課題で取り組めるようにしている。 ＜課題＞・できる教科とできない教科がある。また、すべての児童に対して行えていない部分もある。⇒個別指導に加え、タブレットを活用しいていく。	4 100%	3 81.7%	・学習者用端末の使い方やルールなどを学校で指導していただいているのは大変助かる。ただ、学校だけでなく、家庭でも利活用を進めることができるようになるとよい。学校だけに任せず、家庭でもアプリの使い方や情報モラルについて話し合っていく必要があると思う。親も自分の子どもが何をしているかしっかりと理解できるように努めていく。	＜成果＞・学習内容に応じて児童一人一人に自分に合った学習課題をもたせたり、学級で問題を作ったりすることができた。また、学習したことから新たな課題を見つけ解決していけるような、自立して学習できる児童の育成ができた。 ＜課題＞・個人差があり、課題に対して意欲的になれない児童が2割弱いる。⇒声かけや個別指導の充実を図るとともに、毎日の授業でめあてを立て、その振り返りを行う時間を確保する。また、ICT教育推進委員会を中心に学習者用端末や学習支援ソフトの利活用を進めていくことで、個に応じた指導を実現させる。
	活用のねらいを明確にして、学習者用端末を活用する。	4 91.6%	3 87.1%	＜成果＞・ロイロノートなど新しいアプリの導入で活用場面が増えている。 ・ICT推進教員を中心に低学年での活用場面も増えてきている。 ＜課題＞・学習の習熟を図る場面で活用できるアプリが少ない。⇒個々に合ったアプリを選択できるように導入を検討していく。また。教員のICTミニ研修を充実させていく。	3 78.6%	3 86.3%		＜成果＞・意見交流の場面で積極的に活用することができていて、その効果を実感することができた。 ・調べ学習では、学習者用端末が整備されていない時に比べ、幅が広がった。 ・ロイロノートやフリップ等使い易いアプリを活用したことで、児童の表現方法の選択肢が増え、学習がより深まった。 ＜課題＞・学習者用端末の効果的な指導の仕方がまだ十分に分かっていない教員もいる。⇒今後も引き続き、校内研究やプチ研修会などで技能の向上に努めていく。
学力向上	年間を通して、週1回の上宿タイム、週3回の読書タイム、毎月の詩の暗唱に取組む。東京ベーシック・ドリルの診断テストで正答率を8割にする。	3 88.9%	／	＜成果＞・暗唱の活動は軌道に乗り、児童の興味関心も高い。 ・暗唱カードの導入により、家庭や地域との連携も徐々にできてきている。 ＜課題＞・児童の意欲を継続させていきたい。⇒詩の選定の仕方や1か月に複数の詩を提示するなど工夫していく。 ・読書タイムの時間が短い。⇒時程の工夫などをして読書の時間を増やせないか検討していく。	2 66.6%	1 59.7%	・学力の向上には、学習する時間の確保が必要である。そのための支援を考えたい。 ・高学年になると算数の図形や割合を中心に正答率が5割程度と低くなってきていることが分かり、対策が必要だと感じた。 ・放課後のわくわく教室とも連携して学力向上にあたることができるとよい。	＜成果＞・詩の暗唱に楽しそうに取り組む児童が多く、音読の宿題などでも活用することで、家庭への働きかけにもつながった。 ・学級によって達成度に応じてシールを配布することで、さらに意欲が高まっていた。 ＜課題＞・朝の時間に詩の暗唱をする時間が思うように取れなかったことが取組指標の低さの一因である。⇒生活時程を変更し、朝学習の時間を確保する。 ・学年が上がれば上がるほど学年に応じた能力が身に付いていない児童が複数いて、ベーシックドリルの内容が個人の実態にあっていない場合があった。⇒来年度は、各学年や個人の実態に合ったプリントを準備し、学習できるようにする。
	詩の暗唱と学年に応じた読書の目標設定を行い、年間の目標を達成する。	2 66.6%	2 62%	＜成果＞・CSや放課後子ども教室などと連携して様々な取り組みを行っており、児童の意欲が向上していきている。 ・学級で達成目標を作ったり、意識的に読書の時間を増やしたりしている。 ＜課題＞・学校内での取り組みは徐々に広まり、成果も出つつあるが、学校と家庭との連携が課題である。⇒保護者会やHPなどを使って周知し、連携を図ることが必要。	1 45.5%	2 59.5%		＜成果＞・休み時間の図書室開放が復活したことで、読書に親しみやすくなった。 ・読書旬間の親子読書によって家庭とも連携することができた。 ・保護者や地域の評価は例年よりも10％程度向上している。 ＜課題＞・読書旬間以外の期間に家庭と連携することが難しかったことが取組指標の低さの一因である。⇒国語部を中心にどのような活動が家庭と連携しているのか具体的な姿を想像しながら家庭と連携した取り組みを考えていく。
健全育成	いじめを題材にした道徳の授業を全学級で学期に1回実践し、いじめの未然防止の取組を行う。	4 100%	4 81.5%	＜成果＞・授業以外にも朝や帰りの会、学級活動などの時間にも話をするなど様々な活動を通して、未然防止に取り組んでいる。 ＜課題＞・教科書の教材が、児童の実態に合っていない場合もある。⇒教科書以外から教材を使用した場合、教材や記録を残すなどして、よいものをとりため、さらに活用を進めていく。 ・友達と仲良くできていないと感じたり、学校がいじめ防止や早期発見にあまり取り組めていないと感じている保護者がいる。⇒授業以外でも個々の児童を丁寧に見て対応したり、いじめサポートチームの取り組みを発信したりしていく。	4 100%	3 74.4%	・いじめや交友関係について、なかなか外部には伝わりづらい。学校からのお便りなども、どれくらいの人がきちんと見てくれているか分からないが、伝え続けることが必要。 ・わくわく教室などで実際に子どもたちと関わっている人たちには様子や情報が伝わってきている。	＜成果＞・ふれあい月間など適切な時期にいじめ防止授業を行ったり、互いの価値感に気付くことができるように指導したりしたことで、いじめの未然防止につながった。 ＜課題＞・依然としていじめが認知される件がある。⇒いじめ見逃し0をしっかりと意識しながら、引き続き指導していく。
	毎月児童にアンケートを取り、内容に応じて面談をして実態の把握を行い、組織的に対応する。	4 100%	4 100%	＜成果＞・アンケートの実施により、早期発見の意識付けとして役立っている。 ・子どもたちの気持ちを聞く大事な場になっているので、大切にしていく。 ＜課題＞・高学年になるといじめのことを書きづらくなってくる子もいる。⇒アンケートを取る前に、「心配しないで。安心して。」などのメッセージを送るなど、安心して書ける環境を整えるようにする。	4 100%	4 100%		＜成果＞・小さな案件でも、管理職や生活指導主任に報告し、いじめサポートチームを活用して早期解決に努めることができた。 ・アンケートの内容は必ず聴き取りを行い、解決につなげることができた。 ＜課題＞・周りの目を気にして書きづらい児童がいる。⇒学年の実態にもよると思われるが、電子化が可能かどうか生活指導主任会で確認していく。
体力向上	めあてをもち、運動へ取り組み、振り返るという学習の流れを体育の学習で実践する。	4 100%	3 81.8%	＜成果＞・子どもにも教員にも学習の流れがしっかりと身に付いてきている。 ・めあてや振り返りなどの際は、子どもたちに問いかけ、主体的に学習を進めることができるようにしている。 ＜課題＞・子どもたちが効果的に振り返りをするためのICTの整備が足りない。⇒体育館へのテレビの設置やタブレットを固定して撮影できる器具の購入などを進めていく。 ・めあてをもって運動に取り組んだり、終わった後に振り返りをすることができない児童が若干名いる。⇒授業の開始時や終了時に確認する時間を確保したり、時間がない場合は、タブレットなどを活用する。	4 100%	3 86.6%	・なわとびの技ができる子が年々減ってきているように感じる。幼稚園などでも同様に年々減ってきているように感じている。 ・上宿小の課題である敏捷性等の能力を上げることができる取組をしていけるとよい。	＜成果＞・毎回の授業でめあての確認と振り返りをしっかりと行えていて、児童にもその習慣が付いてきた。 ＜課題＞・学年が上がるごとに求められる技能が高度になり、全員が達成するめあてを設定することが難しかった。⇒状況に応じて全体でのめあてと個人でのめあてを使い分けることで、それぞれの段階に合った目標に向かってスモールステップで取り組めるようにする。
地域との連携	生活科、総合的な学習の時間に地域とのかかわりを生かした学習を各学年で実践する。	3 2.1回	／	＜成果＞・ゲストティーチャーと関わることで、子どもたちの興味関心が高まってきている。 ・農園活動や町探検などで支援していただき、とても助かった。 ＜課題＞・さらなる地域教材の開発や新たなゲストティーチャーを発掘したい。⇒CSや地域連携会議を生かして、教材開発や人材発掘を進めていく。	3 2.7回	4 90.8%	・コロナ禍も明け、地域と子どもたちが関わる機会が増えてきて、とても嬉しい。 ・今後も地域と学校とのかかわりが増えてくると思うので、連絡の仕方などももう一度確認し、しっかりと連携していけるようにしていきたい。	＜成果＞・町探検や地域安全マップづくり、小川用水などで、地域の方に学習を支えていただき、児童の学びが深まった。また、ゲストティーチャーと関わることで、児童の思いが実現に向かって動く姿が見られて良かった。 ＜課題＞・連絡調整に多くの時間を割いている。⇒無理のない範囲で適切に活用できるようにしていく。そのための体制づくり（繰り返し使える教材化）を進めていく。
	年間10回の学校運営協議会を開催し、プロジェクトチームを中心に検討し、具体的な取組を行う。	4 100%	4 70.1%	＜成果＞・地域の方と学校や子どもたちの現状や課題について共有できる場になっている。 ・代表委員会のあいさつポスターなど実現している取り組みもあるので、今後も継続していく。 ＜課題＞・職員は交代で出席しているため、進展が分かりにくい一面がある。⇒引き続き、職員夕会などを通じて、情報を発信していく。また、情報共有ができていることを第一に進めていくことを共通理解していく。 ・全体の約20％の保護者がコミュニティ・スクールの取り組みについて「分からない」と回答している。⇒学校説明会や紙面での取り組みの説明に加え、話し合った内容を保護者会でも話題にしていくなど学校経営協議会の中だけでの取り組みに留まらず、つながりのある活動を意識して行っていく。	4 92.8%	4 71.3%		＜成果＞・読書にまつわるアイディアや企画をたくさんいただく場になり良かった。 ・学校保健委員会を兼ねた回で、充実した話し合いができた。 ＜課題＞・担当の日には出席しているが、回数が少なく、あまり貢献できていないと感じている教員がいる。⇒いろいろな教育課題について話し合ったり、地域の方の声を生で聞くことができたりする場と捉え、話し合った内容をより確実に共有できるようにしていく。
働き方改革	**下校時刻を早め、学年で相談する時間を確保する。月60時間を超える時間外勤務をなくす。**	2 53.9%	3 83.3%	**＜成果＞朝の時間が短いのが少しきついが、目標達成率が昨年度64．3％から今年度83．3％と約20％改善していて、昨年度より勤務時間外の労働が減ってきている。 ＜課題＞・朝の時間の委員会活動で1時間目に遅れる児童かいる。⇒児童の安全確保や教員の時間外勤務の削減のためにも、委員会などの児童の活動も勤務時間内に行う。 ・仕事の量や会議の数が変わらないので負担感は依然としてある。⇒前年度のうちに来年度の提案内容を作成しておくことなどにより、校務や会議の量の削減を推し進めていく。**	3 78.6%	4 100%	・学校の中で会議など様々な調整を図り、働き方改革を進めているのが分かった。 ・今後も働きやすい職場を目指していって欲しい。地域としてもできる限り支援していく。	＜成果＞・２学期は月６０時間を超える時間外勤務の職員は１人もおらず、取り組みに対する成果を実感した。 ・下校時刻を早めたことで放課後の時間にゆとりができ、教材研究などに使える時間増えた。 ＜課題＞・まだまだ、仕事をするのに時間が足りないと感じる教員もいる。⇒会議の精選（方法を含めて）や連絡手段の工夫（ICTの活用）など、校務改善に努めていく。